

やまぐちっ子学力向上だより

第132号 R5.8.3

山口県教育庁義務教育課

子どもたちが自分で考え、自分から取り組む授業の実現を

令和5年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。

小学校では、国語が全国平均と同程度、算数が全国平均を下回るという結果でした。

中学校では、国語が全国平均と同程度、数学が全国平均を上回り、英語が全国平均を下回るという結果でした。

【小学校】※（ ）は全国の平均正答率

	山口県の平均正答率%	
国語	67	(67.2)
算数	61	(62.5)

【中学校】※（ ）は全国の平均正答率

	山口県の平均正答率%	
国語	70	(69.8)
数学	52	(51.0)
英語	44	(45.6)

調査結果からみえてくる授業改善の視点

調査結果は、授業改善をはじめ、今後の学力向上の取組を方向付ける手がかりの一つです。今年度の質問紙調査の結果からは、山口県の子どもの学習に向かう姿勢について、学校（教員）の捉えと子ども自身の捉えの間に大きな差があることがみえました。

[学校質問紙]

児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 そう思わない	そう思わない
小学校	55.8	43.1	1.1	0.0
中学校	44.1	53.8	1.4	0.7

[児童生徒質問紙]

前の学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない
小学校	28.0	50.4	18.0	3.6
中学校	34.3	48.1	14.8	2.7

上記から分かるように、約半数の学校（教員）は、子どもが「自分で考え、自分から取り組んでいる」と評価していますが、「自分で考え、自分から取り組んでいる」と思っている子どもは、それよりも少ない状況です。教員が、授業中の子どもの姿勢を的確に捉えることができていると考えられます。「自分で考え、自分から取り組んでいる」子どもの方が、各教科の正答率が高いことも調査結果から分かっています。

わたしたちは、「子どもが自分で考え、自分から取り組む機会のある授業が、本当にできているのか」ということを問い直し、授業改善を進めていく必要があります。

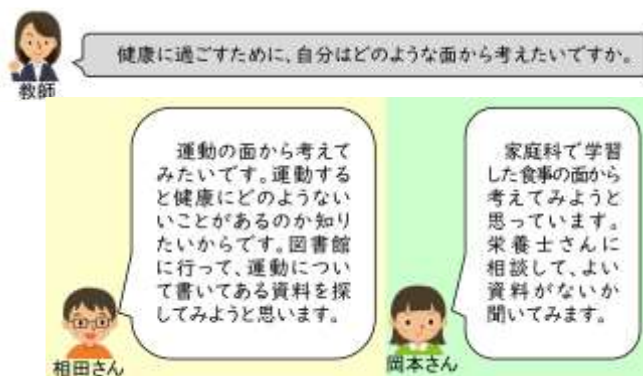
子どもが自分で考え、自分から取り組む機会のある授業を実現するために

子どもが自分で考え、自分から取り組む機会のある授業を実現するためには、いろいろな手立てが考えられます。ここでは、全国学力・学習状況調査の報告書に掲載されている授業アイデア例をヒントにしながら、いくつか取りあげてみたいと思います。

①一人ひとりが、自分の興味や関心、問題意識に応じた学習課題や見通しをもつことができるようにする。

学習課題を自分事としてつかめたり、自分が進めたい学習過程のイメージができたりしたときに、子どもは自分の学びをスタートさせます。

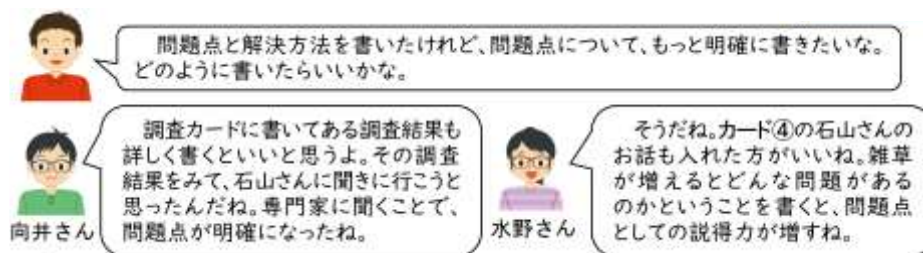
小学校国語②に対する授業アイデア例では、言語活動に取り組む際に、右のように、一人ひとりが学習課題や見通しをもつ機会を設けることが示されています。



②困ったときに、友達や先生に助言してもらおうことができるようにする。

学びが停滞したときや、異なる視点からの意見が必要になったときに、教員や仲間に手助けしてもらえらる場があることで、子どもは安心して自分の学びを進めていくことができます。

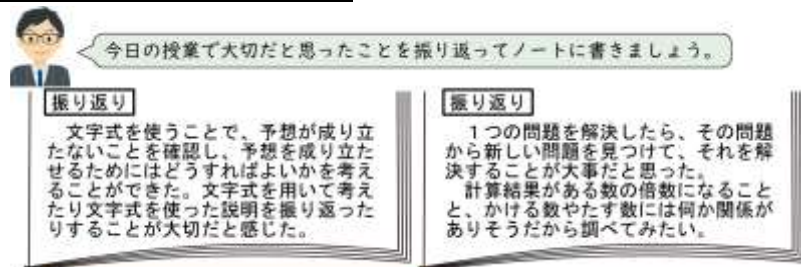
小学校国語①に対する授業アイデア例では、右のように、言語活動を進める中で、友達に助言を求める場を設けることが示されています。



③自分の学びのよさや価値、成果を実感することができるようにする。

自分の考えや取組の価値や成果等を実感したときに、子どもは達成感を感じるとともに、次の学びにも意欲的に向かっていこうとします。

中学校数学⑥に対する授業アイデア例では、右のように、問題解決の過程を振り返り、自分自身で学びの成果を捉える場を設けることが示されています。



「子どもが学びの主体」になる授業を、工夫しながらつくっていきましょう。

なお、上記に参考としてお示しした全国学力・学習状況調査の報告書は、国立教育政策研究所のWebサイト (<https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/>) に掲載されています。(右の二次元コードからも見ることができます)

